

11 子ウシのあつかい方。こんなとき、どうしよう？

子ウシは産まれてすぐの体重は30キロだけれど、お乳を飲んで、エサを食べることをくり返すうちに、すぐに100キロを超える体重にどんどん大きくなっていくよ。だから、いくら子ウシとなかよくなりたいたからといって、猫かわいがりしたり、あそびぐせをつけてはいけないんだ。もし、かわいがりすぎて子ウシが人間を母ウシや友だちと思いこんでしまうと、とてもあつかいづらくなってしまふんだ。だから、しつけはしっかりしよう。それから、子ウシが病気やケガをしないように、いつも注意してあげること大切だよ。

あつかい方の注意
子ウシと仲よくなってからの注意点だよ。
よく覚えておこう。

子ウシを猫かわいがりしたり、子ウシのあそびに乗ってはいけない
子どもはだれでもそうだけれど、たがいにじゃれあって遊ぶのが大好きだ。子ウシは1ヵ月で60キロに達することもあるよ。体重60キロの子ウシにじゃれられると、思わぬケガをすることになる。ウシのあそびは頭でぶつかってくるんだ。子ウシがケンカをしかけてくることもあるよ。これをくり返すと人を攻撃する親ウシになることもあるんだ。つまり子ウシの学習といっても、子ウシを調子に乗せてはいけないんだよ。わかるね。子ウシの学習の目的は、人から逃げないなどおだやかな性格のウシをつくるためのしつけなんだ。

頭のとっぺんにやたらさわるな
ウシの頭のとっぺんに生えている角は武器だよ。子ウシにはまだ角はないが、やがて角がでてくるんだ。子ウシたちをみていると頭を突きあわせたりして遊んでいるうちにケンカになったりすることもあるよ。つまりきみが子ウシと仲よしくなると、子ウシは頭を使ってきみと遊びたがる。このとき角の生える頭のとっぺんにさわると、闘争心を刺激することになって危険だよ。





病気について

和牛は元気な動物だ。草を食べているウシはあまり病気をしないよ。でも飼い主がエサのやり方をまちがえたり、病気にならないような予防対策をしないと病気になるんだ。母ウシに穀物などの濃厚飼料をやりすぎると太りすぎて、繁殖障害といって妊娠しなくなるよ。また、柵からぬけだしたウシが濃厚飼料を食べすぎると急性鼓脹症になるし、喉にサツマイモやミカン類などをつまらせると食道梗塞といって、反芻できなくなってガスがたまる病気になる。これは手当てが遅れると死ぬよ。母ウシのエサが悪いとおこる子ウシの下痢などもある。ヒトもウシも生きものだから、病気をするのはおなじだね。ようすがへんだと思ったら、すぐに獣医さんに診てもらおう。

ケガやトラブル

4本足のウシのケガはめったにない。学校で飼うときは人間がウシにケガさせられることが心配だね。だから、しつけがだいじなんだよ。たとえば、ウシはひっぱる力が強いから、ウシをつないだロープの端を手首に巻いたり、からだにむすんでいると、ウシがきらったり、おどろいた拍子に、走りだし、人が引きずられて大ケガをする危険がある。いくら力んでもウシには、かないっこないから、持ちきれなくなったらロープをはなすことだ。ウシ同士のトラブルは静まるのを待つしかないけれど、強いウシが攻撃や威嚇をして弱いウシにエサを食べさせないことは多いよ。そんなときは強いウシをロープでつないだりすることだね。強いウシの食べすぎと弱いウシの栄養失調で、ともに子ウシが産まれなくなることもあるんだよ。

